

虫歯菌 10秒で死滅

野口歯科医学研究所（小山市菅橋、主席研究員・野口宗則歯科医師）が開発した高濃度で微酸性の次亜塩素酸水（商品名・パーフェクトペリオ）が、虫歯菌を十秒でほぼ死滅させることが、東京医科歯科大学院う蝕（しよく）制御学分野の実験で分かった。同分野の田上順次教授は「まだ試験管内の実験段階だが、局所的に塗るだけで手軽に確実に虫歯を予防、治療する方法が生み出せそうだ。画期的な開発と言えるのではないか」と話し、今後とも同研究所との共同研究を進める考えを示した。

（早川茂樹）

小山野口歯科医学研究所

局所に塗るだけ

微酸性の次亜塩素酸水は残留濃度八〇ppm以下などの基準で、食材を殺菌する食品添加物として認可されている。野口さんはその殺菌力に着目して二〇〇五年秋、超純水と食塩を原料にpH6・5前後で五〇〇ppmという高濃度の次亜塩素酸水の電気分解製造法を開発。製造装置を商品化する一

方、製造法や歯科治療に適した濃度選定について現在、特許を出願している。

野口さんは日本食品分析センターに分析を依頼し、高濃度次亜塩素酸水の安全性が確認できたとして、自ら院長を務める歯科医院で自由診療による虫歯治療などに利用している。

同分野のカイルール・マティン特任講師（う蝕

予防学）は装置の販売会社を通じて今夏、高濃度次亜塩素酸水の存在を知り、アルカリオゾン水など他の機能水とともに、虫歯予防効果について実験を進めてきた。

実験成果を発表

その結果、高濃度次亜塩素酸水は十秒接触させるだけで、虫歯菌のほとんどが死滅。マティン特任講師らは十一月十八日、横浜市内で開かれた国際歯科研究学会で、安全な虫歯予防と治療に有用な機能水として、実験成果を発表した。

田上教授は「局所的に使うのであれば、安全性にまず問題ないと感じている。薬事承認など時間的、経済的な負担の大きい手続きを待つより、自由診療で使っていく方がよりよい治療の普及につながるのではないか」と話す。

野口さんは「私のこれまでの取り組みが認められ、うれしい。今後も田上先生らと研究を進め、パーフェクトペリオを活用した新しい虫歯予防法を確立し、普及させたい」と話している。

高濃度次亜塩素酸水を開発



野口宗則歯科医師

新たな予防法実用化に期待